

気候情報

2014年6月の日本の天候

- 北日本では気温がかなり高かった
- 降水量は、北日本と東日本太平洋側で多く、東・西日本日本海側では少なかった
- 日照時間は、東日本で多く、西日本と沖縄・奄美で少なかった

6月の天気概況

月のはじめは、千島の東の高気圧が北日本を覆い、北日本を中心に気温が平年を大幅に上回った。中旬には、北日本と西日本では気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多くなり、北日本では大雨となる日もあったが、東日本では晴れの日が多かった。下旬は、北・東日本で、上空の強い寒気の影響で雷雨となる日があった。

月平均気温は、上旬と下旬を中心に高気圧に覆われたため、北日本でかなり高くなった。関東甲信地方を中心とした東日本太平洋側と北日本では、上旬や中旬に大雨となり、月降水量が多かったものの、西日本では、まとまった雨になりにくく、西日本日本海側と東・西日本太平洋側の一部で少なかった。特に、近畿地方の月降水量は平年の39%と6月としては最も少ない値となった(統計開始は1946年)。

上旬：月のはじめは、千島の東の高気圧が北日本を覆い、また中国大陸から高温な空気が流れ込んできたことから、日最高気温は、駒場(北海道)の37.8℃(3日)、旭川の35.9℃(4日)をはじめとする、のべ66地点(アメダス地点を含む)で猛暑日となる等、北海道を中心に各地で記録的な高温となった。2日から8日にかけては、旬の前半は西日本太平洋側で、旬の後半は北・東日本太平洋側の一部で大雨となった。九州南部、九州北部では2日頃、四国では3日頃、中国、近畿、東海では4日頃、関東甲信、北陸、東北南部では5日頃、東北北部では6日頃にそれぞれ梅雨入りした(速報値)。旬平均気温は、全国的に高く、北・東・西日本ではかなり高かった。旬降水量は、東日本太平洋側でかなり多く、北・西日本太平洋側が多かった。また、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側では少なかった。旬間日照時間は、北日本で多かったものの、西日本ではかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。

中旬：北日本、西日本と奄美・沖縄は、曇りや雨の日が多かった。北日本日本海側では、旬降水量が平年の324%と6月中旬としては最も多く、また旬間日照時間は平年の33%と、最も少ない値となった(ともに統計開始は1961年)。旬平均気温は、東日本で高く、西日本で低かった。旬降水量は、北日本でかなり多く、東日本日本海側が多かったが、東日本太平洋側は少なく、西日本太平洋側ではかなり少なかった。旬間日照時間は、東日本太平洋側で多く、北日本太平洋側、西日本日本海側と沖縄・奄美で少なく、北日本日本海側はかなり少なかった。

下旬：21日から22日は、東・西日本の太平洋側を中

心に雨となり、旬の中頃には、東日本の上空に強い寒気が入ったため、関東地方を中心に局地的な激しい雷雨となり、東京都や長野県ではひょうによる被害が発生した。また、旬の後半では、太平洋高気圧が強まり、沖縄地方は26日頃に梅雨明けした(速報値)。旬平均気温は、北日本で高かった。旬降水量は、沖縄・奄美では多かったが、北日本太平洋側でかなり少なく、東日本と北・西日本日本海側で少なかった。旬間日照時間は、北・東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本日本海側が多かったが、沖縄・奄美では少なかった。

6月の気候統計

月平均気温：北日本でかなり高く、東日本で高かった。西日本と沖縄・奄美は平年並だった。

月降水量：関東甲信地方を中心とした東日本太平洋側と北日本で多かった。東・西日本太平洋側の一部と東・西日本日本海側では少なかった。西日本太平洋側、沖縄・奄美は平年並だった。

月間日照時間：東日本で多く、西日本と沖縄・奄美では少なかった。また、北日本では平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

6月の記録(1位更新のみ)

- ・月平均気温の高い方から(℃)
 - 羽幌 17.6 留萌 17.3 盛岡 20.8 など7地点
- ・月降水量多い方から(mm)
 - 日光 694.5
- ・月降水量少ない方から(mm)
 - 飯田 44.0 浜松 41.5 神戸 45.5 など8地点
- ・月間日照時間少ない方から(h)
 - 父島 89.3

2014年6月の平年差(比)図

